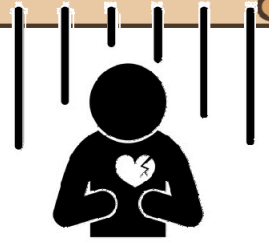


和地ひとみレポート No.464

東大和市ひきこもりに関するアンケート調査結果

一步踏み出した東大和市の“ひきこもり支援対策”



■ひきこもり調査

…はじめて「ひきこもり」という言葉が公の文書に使われたのは平成のはじめ。当初は若者の問題とされていましたが、約30年が経過し、ひきこもりは、80代の親が50代の子どもの生活を支える「8050問題」と呼ばれるまでに長期化、社会問題化。内閣府が行った令和元年調査では、以下の結果のポイントが示されています。

【内閣府の令和元年の調査結果のポイント】

- 満40歳から満64歳までのひきこもりの出現率は1.45%で、推計数は61.3万人であること
- ひきこもり状態になってから7年以上経過した方が約5割を占め、長期に及んでいる傾向が認められること
- 専業主婦や家事手伝いのひきこもりも存在すること
- ひきこもり状態になった年齢が全年齢層に大きな偏りなく分布していること

…特にコロナ禍になってからは「自宅に引きこもるべき」時期もあり、ひきこもりの実態が把握しづらい状況になったともいわれていますが、このたび、東大和市は「東大和市における、ひきこもり状態にある人の実態を把握し、今後のひきこもり支援対策の基礎資料とすることを目的」に、調査を実施。その結果がまとまりました。

【東大和市の令和4年ひきこもりに関する調査の概要】

◆ひきこもりの定義

調査では、次に該当する人を「ひきこもり状態」とした。

- ・概ね15歳以上(中学校卒業程度)～64歳以下の者で以下のいずれかに該当又は類似する人
 - ・ただし、重度の障がい(身体・知的・精神)、疾病、高齢等で外出できない者を除く。
- ① 趣味の用事のときだけ外出する
 - ② 近所のコンビニなどには出かける
 - ③ 自室からは出るが、家からは出ない
 - ④ 自室からほとんど出ない

6か月以上、この状態が続いている

◆調査方法

市内の民生委員・児童委員、主任児童委員55人に、アンケート調査票の配布を行い、担当地区において把握している状況やひきこもり相談支援についての意見を回答してもらい、概ね1か月後に回収を行う手法により実施した。

◆結果のまとめ

- 民生委員の回答者44人が把握している「ひきこもり状態」に該当する人は9人で、男性が6人、女性が3人だった。
- ひきこもりの状態に至った経緯について、今回のアンケートでは人間関係が最も多く、受験の失敗、病気等の出来事が原因であるという回答はなかった。
- ひきこもりの存在を知ったきっかけについては、学校からの情報が半数を占めた。

■実態把握をしている自治体数は

…2021年3月に公益財団法人東京市町村自治調査会は『基礎自治体(区市町村)におけるひきこもりの支援に関する調査研究報告書』を、多摩・島しょ地域39市町村を対象に実施。
…今回、東大和市が実施したような「実態把握調査」については、「把握していない」自治体が11自治体(42.3%)という結果。今回、東大和市が実施したように「民生委員・児童委員へのアンケートまたは聞き取り」という方法で把握している自治体は2自治体のみでした。

【多摩・島しょ地域のひきこもり実態把握の実施状況】

※回答者は「支援を行っている」という26自治体

- ◆各部署で把握しているが、全体をとりまとめていない →10自治体(38.5%)
- ◆庁内の相談件数、支援件数を把握 →4自治体(15.4%)
- ◆標本調査 →2自治体(7.7%)
- ◆民生委員・児童委員へのアンケートまたは聞き取り →2自治体(7.7%)
- ◆保健師・NPO・事業者へのアンケートまたは聞き取り →1自治体(3.8%)
- ◆ひきこもり状態にある方へのアンケートまたは聞き取り(家族・親族を含む) →1自治体(3.8%)
- ◆東京都ひきこもりサポートネット事業における訪問支援窓口での受付件数の把握 →1自治体(3.8%)
- ◆全戸調査 →0自治体(0.0%)
- ◆把握していない →11自治体(42.3%)

…また、「各部署で把握しているが、全体をとりまとめていない」、「把握していない」と回答した21自治体を対象に「ひきこもり状態にある方の実態把握の予定」について調査した結果は、17自治体が(裏面に続く)

「今後も実態把握を行う予定がないとの回答。その理由は「自治体計画がない」、「所管部署が未定」、「支援が途切れ把握が困難」、「調査方法が分からない」などを理由として挙げているとのこと。

■調査の難しさや支援の必要性

…前述のとおり、東大和市は「ひきこもりの実態調査」を実施している数少ない自治体の1つですが、今回、この調査を実際に行った民生委員・児童委員、主任児童委員の方たちからは、その調査の難しさを指摘する意見が多く出ていました。

【調査をした方たちからの意見の一部】

○私の担当地区は高層マンションの多い地域で普段から住民の方と接触する機会の少ない所です。その上コロナの影響もあり発見できないのが実情です。

○ひきこもりの方の存在を把握するのは難題である。本人、家族からの相談はないに等しいと思う。「できれば隠したい…」という心理が先行する。近隣からの状況把握が確実であり、その情報を端緒に支援体制や重層的支援体制に繋がると思います。

○ひきこもりの方が担当地区にいらっしゃるののかも分からない状態です。学校なども、プライバシー保護ということで情報を知らせてくれないので支援のしようがありません。

○ひきこもりの方がいるご家族のケア、支援が大切だと思います。(同居の家族がいる場合)ひきこもりの方がどこに誰と住んでいるのかみつけるのが難しい。

…このように、実態把握の難しさを実感すると同時に、支援の必要性については多くの方が意見を出されています。特に「相談窓口の明確化と広報」、「敷居の低い相談場所」、「居場所づくり」などの必要性についての意見が多くありました。

…前述の、多摩・島しょ地域 39 市町村を対象に行われた調査結果では「ひきこもり状態にある方への支援状況」については、『行っている』が 26 自治体、『検討中』が 4 自治体、『行っていない』が 9 自治体ですが、『支援を行っている』自治体でも実態把握の調査を実施していない自治体は 11 自治体もあるとともに、支援の方法も下記の通り様々な状況です。

【26 自治体の ひきこもり状態にある方への支援内容】

※回答者は「支援を行っている」という26自治体

- ◆相談窓口の設置 →19 自治体(73.1%)
- ◆就労支援 →18 自治体(69.2%)
- ◆訪問支援(アウトリーチによる支援) →15 自治体(57.7%)
- ◆居場所づくり →7 自治体(26.9%)
- ◆その他(講演会、セミナー、相談会の開催など) →4 自治体(15.4%)

■東大和市の支援は

…多摩・島しょ地域 39 市町村を対象に行われた調査において、東大和市がどのように回答したのかは把握していませんが、現時点での支援内容を市のホームページで確認したところ、東大和市社会福祉協議会には家族への支援事業があるものの、市独自のものは無いようです。下記の相談窓口については、すべて各ホームページにリンクが張られているのみで、どこへ相談すればいいのか分からない方には、市の地域福祉部福祉推進課 福祉推進係の内線電話番号が明記されていますが、そこにも「東京都及び関係機関の相談窓口をご案内します。」と書かれているのみです。

【市の HP で紹介されている東京都の相談・支援のメニューと東大和市の社会福祉協議会の支援事業】

〈東京都関係〉

➡「東京都ひきこもりサポートネット」

ひきこもりで悩んでいる本人や家族等からの電話やメール相談に加えて、ひきこもりの問題を抱えているご家庭を訪問し、相談に応じる訪問相談事業を実施。

➡「東京都若ナビ」

18 歳以上の若者を対象とした相談窓口で、電話やメールで相談を受け付け。

〈東大和市社会福祉協議会〉

➡ひきこもり家族会「つながり」定例会

第 4 月曜日の午後 2 時から 4 時までを毎月テーマを決めて開催。

※そのほか厚生労働省関係の事業や、ひきこもりの地域家族会連絡協議会なども紹介されています。

■理解促進も問題解決策のひとつ

…今回の東大和市の調査では、市内にいるひきこもりの方は 9 名のみ把握できました。しかし、調査の難しさなどを考慮すると、実際の人数はもう少し多いかもしれません。

…ひきこもりの問題解決策というと「就労支援」と思われがちですが、今は多様な支援の必要性が指摘されています。また、「ひきこもる権利もある」との意見もあるようですが、一方で「ひきこもりでい続けることによって、さまざまな機会損失が生じること」、すなわち、本人の社交、体験、収入を得る機会などの様々な損失は、大きく社会の課題に結びつくことになるとの意見もあります。

…東大和市では、3 月 19 日(日)の 14 時から、中央公民館で「ひきこもり講演会」が開催されます。これも支援策の一つ。ひきこもり等生きづらさに悩む方や、そのご家族だけでなく、支援者や関心のある人ならだれでも参加できます。

…ひきこもりの原因は様々ですが、支援を受けて、自分にあった仕事や職場を見つけられている方も多くいます。今回の市の調査が、より良い支援策につながることを期待します。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

【プロフィール】「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

1970 年 東京都北区生まれ。父の転勤で 1 歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を 2 年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。／「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経 WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。／『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011 年 4 月、初当選。3 期目の任期 3 か月を残し、2023 年 1 月末日付で議員辞職。



もと東大和市議会議員
和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0005 東大和市高木 3-274-2-102